

平成19年度
発生予察情報

特殊報第1号

平成19年7月26日
埼玉県病害虫防除所
(TEL:048-525-0747)

IYSV (Iris yellow spot virus) によるネギの病害の発生について

本病は、新たにネギで発生が確認されたウイルス病です。ネギ黒斑病の初期病斑と似ているので注意が必要です。

特殊報：新奇な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

1 発生経過

(1) 平成19年7月、県内における露地栽培のネギの葉にえそ条斑や退緑斑を呈する症状が発生した。

症状からウイルスによる病害の疑いがあったため、農林総合研究センター及び病害虫防除所で遺伝子解析(RT-PCR法)により検定したところ、Iris yellow spot virus (IYSV)の感染が確認された。

(2) 本ウイルスによる病害は、本県では平成16年にトルコギキョウ及びユーチャリスでの発生が確認されている。また、ネギへの感染は栃木県、群馬県、大分県で報告されている。

2 病原ウイルスの性質及び伝染

本ウイルスの形態は被膜を持つほぼ球状の粒子で、トスポウイルス属に属する。

本ウイルスはネギアザミウマが媒介し、一度ウイルスを獲得したネギアザミウマの個体は終生ウイルスを伝搬するが、経卵伝染、土壌伝染、種子伝染はない。

また、管理作業による汁液伝染の可能性も低いとされている。

3 病徴

葉身に不明瞭な退緑斑が発生し、その後淡黄色～白色のえそ条斑を生ずる。病斑の大きさは、10～15mm程度である。

4 ネギアザミウマについて

ネギアザミウマは、ネギ、タマネギ、ニンニクなどの主要害虫であるが、寄生植物は極めて多い。

体長は1.1～1.6mm、体色は黄色のものから褐色のものまで変異が見られ、一般に夏期は淡色系、冬期は暗色系が多い。

本種の発育は非常に早く、産卵された卵は20 で20日、25 で16～17日で成虫となる。発生の最盛期は6月～9月で、この期間に高温少雨の気象条件に推移すると多発生となる。

5 感染植物（海外における報告を含む）

- (1) リンドウ科：トルコギキョウ
- (2) アルストロメリア科：アルストロメリア
- (3) ユリ科：ニラ、タマネギ、リーキ、
- (4) ヒガンバナ科：アマリリス、ユーチャリス、クンシラン
- (5) アヤメ科：ダッチアイリス
- (6) ヒコ科：センニチコウ
- (7) アカザ科：ハウレンソウ

6 防除対策

- (1) ウイルスの伝搬は、ネギアザミウマによって行われるので、媒介虫の防除を行う。
- (2) ほ場内及び周辺の雑草はウイルスの発生源やアザミウマ類の繁殖場所となるので、施設内外の除草を徹底する。
- (3) ニラ及びトルコギキョウ等の施設では、開口部に防虫網や寒冷紗等を張り、施設内へのアザミウマ類の侵入を防ぐ。

【参考】 アザミウマ類発生時の防除薬剤と農薬使用基準

薬 剤 名	系 統	使用時期 (収穫前日数)	使用回数
ダイアジノン乳剤	有機リン	2 1	2
スミチオン乳剤	有機リン	1 4	2
オンコルマイクロカプセル	カーバメート	1 4	1
アグロスリン乳剤	ピレスロイド	7	5
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	3	3

(使用基準は平成19年7月25日現在)

農薬危害防止運動実施中(平成19年5月1日～8月31日)

- ・使用前にもう一度、農薬ラベルを確認しましょう！
- ・農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互散布しましょう！
- ・ネギは薬剤が付着しにくいので、ネギの茎葉に散布する場合は、必ず展着剤を加用し、株元にも十分薬液が付着するよう散布しましょう！
- ・農薬が周辺に飛散しないよう注意しましょう！

- ・ 土壌くん蒸剤を使用するときは、土壌を被覆して揮散を防ぎましょう！
- ・ 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前にお知らせをしましょう！

7 被害写真



ほ場での発生状況



白色のえそ病斑